



ふる かわ ゆき ひろ
古川 幸宏
自由民主党田原市議団



障害者（児）支援の方向性は

地域生活支援の充実を図り、障害児も障害者も共に育ち、共に暮らせるまちづくりに努めていく

障害者（児）の支援について

問 障害児支援の方向性は。

答 乳児期から成人期までの一貫した相談機能の確保、発達相談の機能や体制の充実、障害児支援、母子保健、健康・医療、教育委員会などの連携体制を強化する。また、ライフステージごとに支援が途切れない体制づくりや、保護者が安心して子育てができるよう障害児支援の充実に取り組んでいく。

問 障害者支援の方向性は。

答 障害者計画に掲げる基本理念や基本的な方針を基に、地域生活支援の充実を図り、障害児も障害者も共に育ち、共に暮らせるまちづくりに努めていく。

問 親亡き後を見据えた高齢化への対応は。

答 田原市障害者総合相談センターを中心とした相談支援専門員が相談支援を行い、必要に応じて介護保険のケアマネジャーへの引き継ぎを行うなど対応している。

問 緊急時の受け入れの対応は。

答 市内の入所施設やグループホームで、いかなるときでも緊急受け入れに応える体制を整えている。

問 その他の多様なニーズに応えるための取り組みは。

答 障害者や障害児に関わる地域、医療、就労など、さまざまな機関で構成する田原市障害者自立支援協議会で地域生活の継続に関する検討を行い、新たな社会資源の創出などを行っている。



令和6年度

愛知県田原市決算書

一般会計
特別会計
企業会計

問 極的に行うべきと考えるが。
答 定例的・定型的なイベントを開催すること 자체が目的化しているものは見直す。地域活性化やシティセールスなどの事業目的を達成するため、新たなイベントが必要な場合もある。目的や効果を検証し、内容の見直しや統合・廃止を検討していく。
問 外部意見を取り入れた機関を設置し、事業の見直しや廃止の意見を伺う取り組みはできないのか。
答 既存の仕組みを活用しながら、他の先進事例や効果的な手法を参考に、より良い評価の仕組みを研究していく。